



白 門 板 橋

2003. 3. 15 VOL.19

編集 中央大学学員会 東京板橋区支部
発行 〒175-0082 板橋区高島平2-23-3-101 TEL 03-3550-3300



■新春のあいさし

節目の年を美のある年に

支部長 小日向 孝介

会員の皆様、明けましておめでとうございませう。

日本の経済は依然低調に推移しており、明確な再生の糸口が見出せない現状ですが、母校・中央大学の各界における活躍は目を見張るものがあります。正月恒例の箱根駅伝では、まさかの往路十一位から復路一位、総合五位へと盛り返し、手に汗握るドラマを演じてくれました。また大相撲初場所では、出島が優勝争いに絡み、豪風も次場所の幕内入りが確実となりました。

「国家試験に強い大学の伝統復活」を目標の一つとして展開する百二十五周年記念事業は、早くもその効果の片りんを見ることができました。昨年度の司法試験合格者は、順位こそ五位に甘んじましたが、百名の大会に乗せることができましたし、公認会計士試験も東大を抜いて二位に躍進しました。

ここで板橋区支部の近況と事業計画について触れてみます。

まず本年は、会員増強運動を積極的に展開したいと考えております。昨年は後半にかけて、地元・高島平警察署長及び板橋北郵便局長の入会がありました。当支部には板橋区長、助役、区議会議員及び区議会議長をはじめ、地元事業経営者を多数擁し、都区内では最も充実した支部の一つであると自負しております。

更に今年も、支部創立十五周年を迎えます。これを機に教育委員会とタイアップし、講演会等の記念事業を計画しております。

この春には、全国統一地方選挙が実施されます。当支部から出馬される会員のご健闘を祈り、熱い声援を送りたいと思います。

会員の皆様にとって幸多い年でありますことと、板橋区支部のますますの隆盛を祈念して挨拶と致します。

支部ニュース

盛大に新年を祝う

平成十五年「新春の集い」は、去る一月二十四日(金)午後六時から区立文化会館大会議室を会場に、六八名が参加して盛大に開催されました。

定刻、小日向支部長に挨拶をいただいた後、祝宴前に集合写真をと



「惜別の歌」を合唱する出席者

撮り、小野田顧問の発声で乾杯！
受付で手渡された番号札で、それぞれ所定のテーブルに別れて祝宴がスタート。

抽選による今回のテーブル席に日頃交流の少ないメンバーとも歓談が弾み、時間の経過とともに交流の輪が広まって行きました。

宴半ば、多忙な石塚顧問(区長)が駆けつけ、早速に挨拶をいただき、今年は選挙の年でもあり、支部会員の健闘を祈念され、盛大な拍手が送られました。

花見の当番・常盤台須田副プロック長からの案内に続いて、初参加した会員の自己紹介があり、場内から拍手を浴びました。

テーブル間の移動は活発になるものの、BGMが流れる場内は、何か忘れ物をしたような静かさで心配だったが、カラオケ同好会の主導で次々と演歌が歌われ、頂点に達したところで、全員が恒例の応援歌、校歌を歌い、最後は腕を組んで「惜別の歌」合唱した後、今年米寿を迎えた関常任幹事の音頭で景気よく中締め、岩次副支部長の閉会の挨拶で散会しました。

(池田記)

■秋の旅

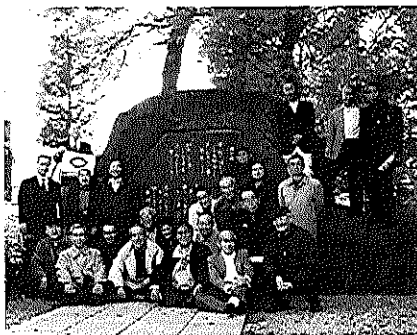
懐古園に紅葉を愛でる

*

恒例の秋の旅行が、昨年十一月十六〜十七日(日)に一泊二日の日程で、深まった秋の信州・懐古園に紅葉狩りをした後、真田三代の隠し湯といわれる角間温泉に浸かって日頃の疲れを癒し、一日目は抜けるような秋晴れの下を善光寺に詣でてから、地酒の酒蔵を見学して吟醸酒の振る舞い酒で昼食をとり、まさに大々気分の楽しい旅行であった。

*詳細のレポートは、五ページの旅行記及び「学員時報」三月号を参照下さい。

(池田記)



宴会前に記念撮影(於：岩屋館)

■白門出身力士に

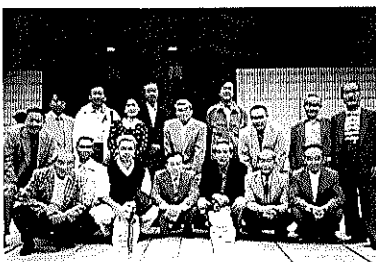
熱い声援を送る

○●○

大相撲九月場所七日目の九月十四日(土)、支部の有志十七名で母校出身力士の応援に西国国技館へ繰り込んだ。

この場所、出島の休場は寂しかったが、アザラシのタマちゃん人気にあやかっただけで、玉春日が十勝をあげる好成績、期待の豪風も勝ち越して我々の声援に応えてくれた。

(金子記)



大相撲を観戦した有志

母校のニュース

新学長に角田邦重教授



母校・中央大学では、去る十月任期満了に伴う学長選挙が行われて、新学長に角田邦重法学部教授（40年法卒）が選任された。専門は労働法。

□募金額十七億一月末現在□

母校二二五周年記念事業の募金活動が、昨年来学員を中心に実施されているが、一月末現在で総額一七億円に達した。板橋区支部でも五〇万円をはじめ、個人を含めて都区内一五支部中、五位の二七二万円の申し込みを済ませたが、もうひと踏ん張りが必要である。

□各種国家試験で成果□

*

平成十四年度の国家試験は、次のとおりで多大な成果を挙げた。

▼司法試験 一〇五人合格 (前年七六人)

▼公認会計士試験 九四人合格 (前年五九人)

▼国家試験Ⅰ種 三一人合格 (前年二一人)

▼国家試験Ⅱ種 一六八人合格 (前年一四四人)

司法試験は百名の大会を回復するも五位にとどまり、公認会計士試験は五割増の健闘で東大を抜いて三位に躍進した。

□箱根駅伝は総合で五位□

新春恒例の箱根駅伝は、往路で

トップに立つ場面もあったが、五区の出遅れがたたわり、総合で五位にとどまった。

山登り予定のルーキー中村選手の前発熱、腹痛のアクシデントで急遽、十区補欠の高橋選手を起用、これが墓目に出て夢を断られた。選手層の充実が望まれる。

東都大学野球 秋季リーグ戦は五位に終わる

*

混戦の続く東都大学野球秋季リーグ戦は、投手陣の踏ん張りも空しく五位に終わった。

学生野球は、投手陣の出来が勝敗を大きく左右するが、序盤エース・芦川投手のエンジンがかからず苦戦が続き、後半に一年生の江波投手が活躍して、勝率で最下位を免れた。

来季はエースの卒業で不安が残るが、若い江波投手と、噂されている有望新人左腕投手に期待がかかる。

□藤原選手が世界陸上へ□

□

第9回・びわ湖毎日マラソンに一般参加した中大の藤原選手が、二時間八分二一秒の初マラソン日本最高記録で三位入賞、世界陸上への二人目の切符を手にした。

藤原選手は、正月の箱根駅伝で二区を走り区間賞を取っている。文学部四年、ホンダへ入社内定。

ロースクールの動向

■■■



現行司法試験とは別の新司法試験の受験資格を与えられるロースクールについては、二〇〇四年設立をめざして準備が進められているが、東大、早大とともに最多の二〇〇人定員を予定。現在、六月認可申請に向け、重要なカリキュラム、教員組織、学費などについて作業が進行している。

また、昨年発足したアカウンティングスクール（大学院国際会計学科）は、春秋合わせて二七七人が受験、一一五人が合格、うち九五パーセントが社会人。

(栗原記)

告知板

支部観桜会 ■ 日程決まる

常盤台ロックが担当

支部恒例の観桜会が、今年は常盤台ロックの当番で、次の要領で開催されます。奮ってご参加ください。よろしく案内致します。

日時／四月五日(土) 正午
場所／区立常盤台公園

常盤台駅北口下車三分

会費／四、〇〇〇円

世話役／小野沢、須田

申込み／別紙で二月末日まで

TEL&FAX 3969-5960



定時総会の日程決まる

第十五回・定時総会の日程が、次のとおり決定しましたので、お知らせ致します。

記

日時／六月二日(土)

午後二時～(予定)

場所／区立文化会館・大会議室

*

当日は、支部創立十五周年記念事業として、記念講演会を予定しておりますので、多数ご出席くださるようお願い申し上げます。

(実行委員会)

□年会費納入のお願い□

平成十四年度の年会費が未納の方は、至急納入下さるようお願い致します。

支部の定時総会に出席できなかった会員に未納が多く、支部の事業運営に支障を来しておりますので、ご理解とご協力をお願い致します。

(会計幹事)

訃報

謹んで

お悔やみ申し上げます

(敬称略)

*

▼平成十四年三月逝去

日下部 逸男 21年法卒

・板橋区東新町一ノ三九ノ七

▼平成十四年九月逝去

掘田 澄人 28年法卒

・板橋区赤塚一ノ三四ノ九

▼平成十五年二月逝去

坂井 健一 29年経卒

・板橋区小茂根一ノ六ノ九

・支部監事

◆会員増強運動展開中

板橋区内に居住もしくは勤務する、あなたの先輩・同輩・後輩に板橋区支部への入会をお誘い下さい。(事務局)

☆☆☆☆

新入会員のご紹介

(敬称略・入会順記載)

★

どうぞよろしく

お願い申し上げます。

★

▽吉村 健正 45理工卒

埼玉県人間郡三芳町

・藤久保 三五九ノ四五

・株式会社ルケオ会長

・ゴルフ

▽石森 宏宣 38商卒

・津瀬市元町一丁目

・八ノ三ノ五〇六

・税理士

・旅行

▽荒井 賢太郎 43法卒

・板橋区高島平二丁目

・一一ノ三三一

・地方公務員

・剣道・帆船模範作り

・釣り

(事務局)

■秋の信州旅行記 — 懐古園に紅葉を愛でる

■快適なバスの旅

夏が暑く長かっただけに、短い秋が逃げないうちに、と板橋区支部は、去る十一月十六〜十七日(日)に、バスを仕立てて信州・小諸城址と善光寺詣での旅をした。

定刻の午前八時一五分、板橋産文ホール前を出発した一行は支部長の挨拶が終わるや否や、係員の配った缶ビールで、早くも乾杯!

区外から参加した者は、まだ眠い眼をこすりながらの唱和だったが、飲む程に元気が出てくる。上信越自動車道をひた走り富岡を過ぎる頃には、左前方に真っ白な雪を被った八ヶ岳の山並みが顔を出す。

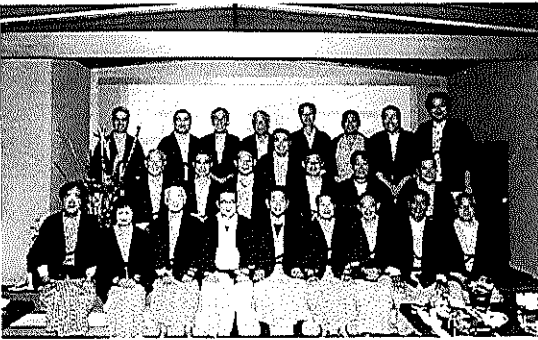
自然は美しい! 日頃の疲れが一度に吹き飛ばすから、実に不思議である。

小諸の街に予定の時刻より早く到着した一行だが、老舗「揚羽屋」の主人の厚意で、一階へ

案内され、名物の一膳飯と、しらみ豆腐で昼食。薄暗い階下の片隅に藤村自筆の看板を見つけて、小諸藝塾時代の若き藤村を偲んだり民芸品を品定めする。

小諸を訪ねた目的は、われら学員の愛唱歌、藤村作詩の「惜別の歌」の歌碑を見ることがだった。懐古園に隣接する小高い斜面に建立された歌碑を囲んで「惜別の歌」を合唱し、青春を取り戻す。

懐古園内の楓、樺の老木は色鮮やかに染まり見事であったが、水の手展望台から眺めた千曲川は、ダムが建設されていて、美しい筈



「惜別の歌」の歌詩を囲んで

の眺望が破壊され、旅情が半減したのは残念だった。

■豊かな自然が残る信州

旅の衣を解いたのは、真田町の山奥にひっそり佇む一軒宿「岩屋館」で、行き止まりの駐車場から徒歩でチェック・イン。真田皇尊等三代の隠し湯で、秘湯を守る会の会員でもある。

家族連れなど個人客を対象にす静寂な宿で、数日前には俳優の丹波哲郎(中大OB)の家族が滞在したときの模様がTV放映された話題に富む。ウリは自然そのままの露天風呂で、風情は十分。

午後十時を過ぎると混浴になるのがいい。湯上がりの宴会は、山菜料理に岩魚と鯉のあらいに、舌鼓を打つ。むろん酒も旨い。

二日目の善光寺詣では、商売繁盛を祈願した後、先輩の親戚が宮む酒蔵を見学し、地酒の吟醸酒を試飲しながら信州そばで昼食。

名物の味噌や野菜を買って帰途についた。(平山惟美記)

*

(本稿は、「学員時報」三月号に掲載したものに加筆しました。)

◆◆◆ 支部観桜会のあゆみ

板橋区支部が発足して今年四月で十五周年を迎えるが、その間観桜会は八回行われた。

平成2年4月1日(日)

区立常盤台公園

同 8年4月13日(土)

牛久シャトー

同 9年4月12日(土)

隅田川・屋形船

同 10年4月5日(日)

赤塚城本丸跡

同 11年4月10日(土)

割烹・吉樂

同 12年4月1日(土)

区立加賀公園

同 13年4月8日(日)

区立茂呂山公園

同 14年4月6日(土)

区立城北公園

同 15年4月5日(土)

区立常盤台公園

(池田調べ)

和田文学拾い読み



「名作・人生案内」

著者／和田 芳恵
発行所／株式会社油積舎

*

紛らわしい名前だが、著者・和田芳恵は、一九二二年に中大法学部卒業のレッキとしたOBで、新潮社で雑誌を編集のかたわら小説執筆並びに樋口一葉の伝記的研究を進め、「一葉全集」(全七巻・塩田良平と共著)を刊行し、「一葉の日記」では日本芸術院賞を受賞した。小説の分野で残した作品は少ないが、晩年になって自然主義系統の凝視力で娼婦の生や老人の性を描いて評価を高め、直木賞・読売文学賞等も受賞している。法律を学んだ和田芳恵が文学の世界へ飛び込んだのは、在学中に教養科目「貨幣論」の講義を受けた故芹沢光治良氏(後に作家)が教鞭をとるかたわら朝日新聞夕刊に発表した初の連載小説「明日を

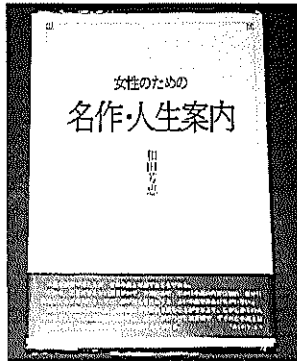
逐うて」の影響によるものと思われる。

ソルボンヌ大学で「貨幣論」等を修めた芹沢氏が、帰国後に改造社の懸賞小説に応募した「ブルジョア」は一等に入選し、学者への道を捨てて文学への道を模索しているとき、朝日新聞文芸部長の鈴木文史朗の推薦で新聞小説を執筆する好機に恵まれた。

フランス帰りのスマートな文体は、中大のキャンパスばかりでなく、多くの若者の話題になり、和田芳恵も文学への夢を大きく膨らませたに違いない。

*

本書には、伊藤整「氾濫」、大



岡昇平「武蔵野夫人」、島崎藤村「伸び支度」、有島武郎「或る女」、林芙美子「晩菊」など、およそ近代日本文学の中から女性を主人公にした名作と言われる作品六〇編を選んで、それぞれの粗筋を紹介し、女性が生きて行く上での道標になればどの願いを込めてガイドしている。

その中に、敬愛する芹沢光治良の「パリに死す」も収録されているからうれしい。

*

結婚生活に入っても、かつて夫が愛した鞠子の影に怯える主人公・伸子は不幸だった。異国の地で死を覚悟して遺書を遺す。

中略「人間としての教育を受けずに傲慢な娘のまま、心の準備もなく、お前のお父さんに嫁いだ」と、遺書にしたためたのは、古い日本の箱入り娘の仲人結婚に当てはまる主人公の悔恨であり、娘の万里子への教訓でもあるが、同時に「自立」を促す読者へのメッセージでもある。

この作品はフランスで出版(仏語)されて話題を呼び、その後日本でも出版された。(平山記)

大相撲一月場所
——
中大出身力士の星取表

豪風が幕内に昇進

「出島も三役返り咲き」

▽出島(武蔵川)

本名・出島武春 平8卒

西前頭三枚目十一勝四敗

▽玉春日(片男波)

本名・松本良一 平6卒

東前頭12枚目〇勝五敗十休



▽豪風(尾車)

本名・成田 旭 平14卒

西十両3枚目 十勝五敗

▽田中(友綱)

本名・田中康弘 平10卒

幕下西9枚目四勝二敗

▽中尾(松ケ根)

本名・中尾浩規 平7卒

幕下東15枚目四勝二敗

(池田記)

■舟渡という地名

舟渡という地名は、文化・文政の時代に編纂された「武蔵風土記」に、蓮沼村の小字名として出てくる。もちろん戸田の渡しがあったので名づけられたと

地名の由来…⑪

「舟渡」の巻

■舟渡は洪水のメッカ

した。明治八年に渡しのそばにできた戸田橋は、明治末年まで「賃取り橋」であった。賃取り橋というのは、太政官布告によって制定された。その中に「諸運輸の便利をおこし候者は…」とあり、通行料を取れる決まりになっていた。



うので、「十度の宮」と呼ばれるようになった。その石塔の角が丸まっているのは、洪水の度に川底の石ころのように転がされたためだという。現在では、洪水を防ぐ神様というだけでなく、「東京・荒川市民マラソンIN・ITABASHI」の完走祈願のお札を出すお宮としても知られている。

明治三十年頃の戸田橋の橋賃は一人二厘だったという。昔から洪水に悩まされ一六五九年(万治二)に、水害の神様でもある氷川神社を造立した。しかし大きな洪水があると、その都度流され、流されると建てられた。

これは地元・舟渡地区の町会でやっていて、無料である。また当日ラーメン三〇〇食を用意し、その売り上げ金を地元小学校などに寄付している。この地区には、戸田葬祭場がある。戸田は、川向こうの埼玉県の地名なのに不思議に思うが、これは明治四四年、昭和五年にかけて行われた治水工事により、戸田町の一部が新水路によって離れてしまったため、住民の利便を考えて板橋区と埼玉県とで話し合い、板橋区に編入して舟渡三丁目(現在は舟渡四丁目)としたことによる。

明治に入り町村が組織され、この時舟渡の地名が消えた。しかし昭和十二年から七年間かけた区画整理事業の後、昭和二十一年に「舟渡」の町が誕生し復活

これが十度も繰り返されたとい

昭和二十五年のこと、昭和の初めはまだ住む人は少なく、家は中山道を中心にわずか十数軒あるだけだった。しかし、昭和四十三年の三田線開通、昭和六十年には埼

京線が開通して便利になり、現在には約七千人余りの人々が住んでいる。

今回の取材では、舟渡町会・副会長の植草正勝氏に、大変お世話になり改めてお礼申し上げます。(中三川記)



編集後記

●…大相撲の一月場所所で敢闘した出島(武蔵川)が九場所ぶり二役に返り咲き、豪風の幕内昇進とともに明るいニュースだったが、関脇まで張った玉春日が十両へ陥落。勝負の世界は何とも厳しい。●…三月場所が終わると、桜前線が北上して支部の観桜会。今年はどうんな咲き具合が楽しみである。それにしても、今年もまた桜を見ないままで他界された会員が、五名も出てしまった。心からご冥福をお祈り申し上げます。(平山記)